

SFC 研究所所長 殿

SFC 研究所ラボトリ年次活動実績報告書 (2020年度)

ラボ名称	未来フィールド開発・ラボ				
ラボ代表者	氏名	村井 純、國領 二郎	所属	慶應義塾大学、総合政策学部	
ラボ設置期間	2018年8月9日 ～ 2021年3月31日			2	年間

[illegible]

年次活動実績報告
研究活動報告 （設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。） 「未来フィールド」とは、小田急グループが新たな経営ビジョンとして打ち出した、木をイメージした造語である。「わくわく×イノベーション」という幹を持ち、その先に、くらし、モビリティ、観光、まちづくりの4つの「葉」を持つ概念で、SFCとの共同研究によって「葉」及び「枝」は、大学の自由な発想や知をもとに発展拡大させ、実用化していくことを目的としている。 本ラボラトリではSFCの様々な知や経験を未来フィールドの創造に活用していくため、学内へ研究課題を公募し、採択課題を決定し、それぞれの課題に関連する事業を行っている小田急グループ内の企業と連携して採択課題の研究活動を推進している。1年次の採択課題は2年次前半までを研究期間としているため、本年度は、昨年度の継続とし、以下の研究を推進した。 都市の超高解像度4Dボクセルマップの作成とその応用探索(田中 浩也/環境) 環境センシングによるユーザ参加型MaaSの共創(佐藤 雅明/政メ) 人生100年時代・総認知機能低下時代のためのDementia Friendly Transportation ビジョンづくり(佐藤 理恵/健マネ) 認知機能の低下に伴う外出の不安をサポートする“DF Outing Navi”(青木 佑/健マネ) 新交通システム、自走型ロープウェイの1/5モデル開発(須知 高匡【理工学部学生】、梅嶋真樹/政メ) 小田急沿線都市データの可聴化による音風景の創作(藤井 進也/環境) IoT技術とWeb環境の融合による鉄道サービスの向上(増井 俊之/環境) シェア型LFOM マイクロモビリティの実証的検証(高汐 一紀/環境) 食を通じた拠点づくりによる地域社会のヘルスアップ(小松 浩子/看護) スマート箱根：LIVEセンサスの高解像度化(中澤 仁/環境) "データ活用による効率的・公平・健康的なモビリティ Student Life (SFC-SFS) and Social Media Data for Efficient, Equitable and Healthy Mobility"(日比 友紀子/総合学生) SenTan: an IoT system to improve user experience and support the operation of hot-spring public bath(姜 欣怡/環境学生) 子育て世代に向けた情報開発のフィールド研究(仲谷 正史/環境)
研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）
現在、本年度研究成果を取りまとめている